

考えを整理し根拠をもって表現する児童の育成 ～ICT を活用した思考ツールと協働的な学びを通して～

那覇市立松川小学校教諭 大城 美香

〈研究の概要〉

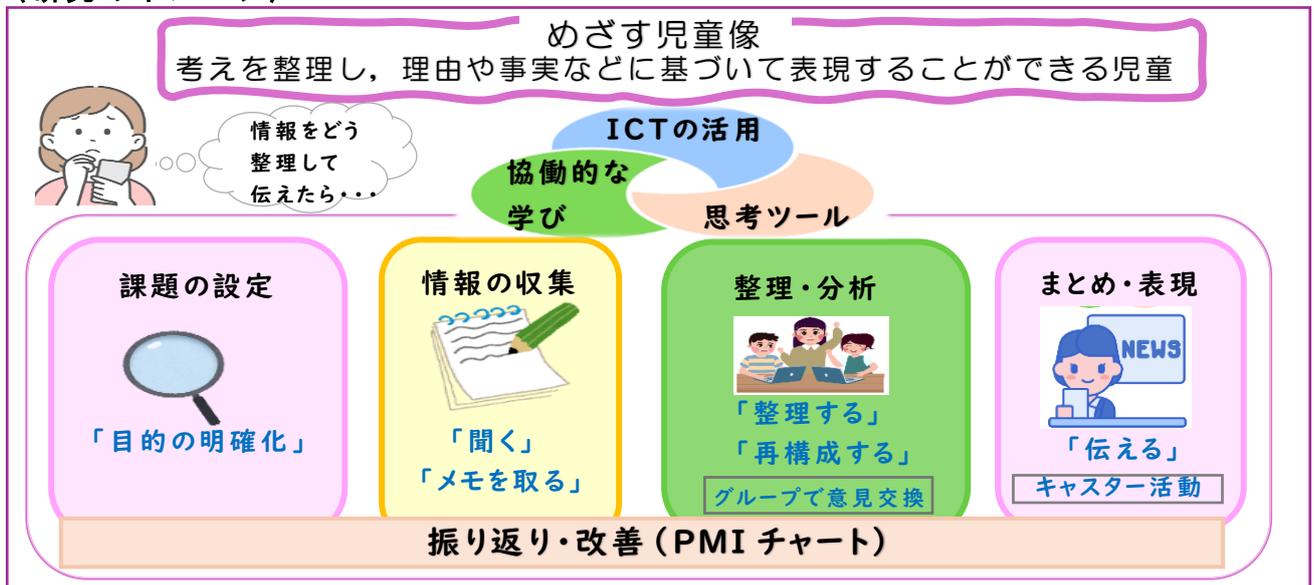
児童の実態として、情報を整理し、自分の考えが伝わるように表現する力に課題があることが分かった。この課題を踏まえて、学習のゴールを「情報を正しく伝えられるキcasterになろう」と設定し、「情報を正しく伝えるためにはどうしたらよいか」という話し合いを行った。

その結果、児童はメモを取ることの重要性や課題に気付き、学習全体のめあてを「メモの向上」とし、最終的な活動を「先生の夢中を聞いて伝える」ことに設定した。

課題の解決に向けて、まず課題を明確に設定し、思考ツールとして Y チャート(情報を三つの視点で整理)、Xチャート(情報を四つの視点で整理)、クラゲチャート(主張とそれを支える情報を分類・関連付ける図式)をメモとして活用した。また、PMI チャート(事柄をプラス・マイナス・興味深い点に分類)を「アイディアバトンカード」に組み込み、話し合いや各時間の振り返りに活用することで、情報の整理・分析活動を位置付けた。さらに、ICT を活用してメモを共有・可視化し、協働的な学びとしてグループでの意見交換を取り入れ、キcaster活動につなげた。授業では国語科単元「聞き取りメモの工夫」を設定し、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「振り返り・改善」という学習過程を展開した。

その結果、ICT を活用した思考ツールと協働的な学びを通して、児童は情報を収集・整理・分析し、他者の意見と比較しながら自分の考えを再構成し、根拠をもって表現する姿が多く見られた。これにより、考えを整理し、理由や事実などに基づいて表現する育成につながったと考える。

〈研究のイメージ〉



目 次

I	テーマ設定の理由	11
II	研究目標	12
III	研究仮説	12
	1 基本仮説	
	2 作業仮説(1)(2)	
IV	研究構想図	12
V	研究内容	13
	1 考えを整理し根拠をもって表現する児童とは	
	2 情報活用能力に基づく表現力を育む授業づくり	
	3 ICTを活用した協働的な学びと再構成	
	4 ICTを活用した思考ツールの手立て	
	5 対話的な活動を促進するアイデアボタンカードの工夫	
VI	授業実践(第4学年)	15
	1 国語科における実践	
	(1) 単元の概要	
	2 本単元の指導と評価計画(8時間)及び本単元に係る学習の系統	
	3 本時の指導	
	(1) 目標	
	(2) 授業仮説	
	(3) 本時の展開	
VII	結果と考察	18
	1 作業仮説(1)の検証【結果】【考察】	
	2 作業仮説(2)の検証【結果】【考察】	
VIII	成果と課題	20
	1 成果	
	2 課題	

《主な参考文献》

考えを整理し根拠をもって表現する児童の育成 ～ICT を活用した思考ツールと協働的な学びを通して～

那覇市立松川小学校教諭 大城 美香

I テーマ設定理由

現代は、インターネットやメディアを通じて日々膨大な情報が流れ込む社会である。情報技術の発展により社会や生活は急速に変化し、正解がなく予測が難しい「VUCA(ブーカ)」の時代とも言われている。そのような時代を生き抜くには、情報を正しく整理・分析し、適切に判断して行動できる力が求められる。

小学校学習指導要領解説総則編では、「各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする」と示している。また、文部科学省「教育の情報化に関する手引」(文部科学省 2019)では、児童生徒が情報や情報手段を適切に活用し、主体的に学び、多様な他者と協働しながら社会の変化に対応する力を育成することが重要であるとしている。

また、本県では「『自立した学習者』育成プロジェクト」(沖縄県 2025)を推進し、授業改善と ICT 活用を一体的に進めている。多様な他者との協働を通して学びを深め、児童が課題を見つけ他者と協力して解決する力の育成を目指しており、ICT を活用した協働的な学びの指導が重要であると考えられる。

本校の令和 6 年度全国学力・学習状況調査(国語科)の結果では、「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」に関する正答率は 53.2%であった。特に「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」では 38.3%と低く、情報を整理し自分の考えを伝えることに課題があることが明らかになった。このことから、相手に伝わるように根拠をもって表現する力の育成が求められる。特に、他者との意見交換を通して、再構成する言語活動の充実が必要である。

私はこれまで ICT を活用し、グループで情報を収集・整理し、図やグラフを使って伝える指導を行ってきた。しかし、複数の情報を整理・分析し、考察を加えて自分の考えを表現する力には依然として課題が残った。これは、児童が「どのように情報を整理すればよいか」「比較する視点は何か」といった思考の進め方を理解して取り組むための具体的な手立てが不足していたこと、また、新たな視点を取り入れて再構成する場が授業に十分位置付けられていなかったことが要因と考えられる。

そこで本研究では、ICT を活用した情報を整理・分析する場において、協働的な学びの中で児童が自分の考えを多角的な視点から捉え直して再構成し、明確な根拠とともに表現する力の育成を目指すことで、自ら考えを整理し、根拠をもって表現することができるだろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

考えを整理し根拠をもって表現する児童の育成を目指すために、ICTを活用した思考ツールと協働的な学びを組み合わせた指導の工夫について実践的に研究する。

III 研究仮説

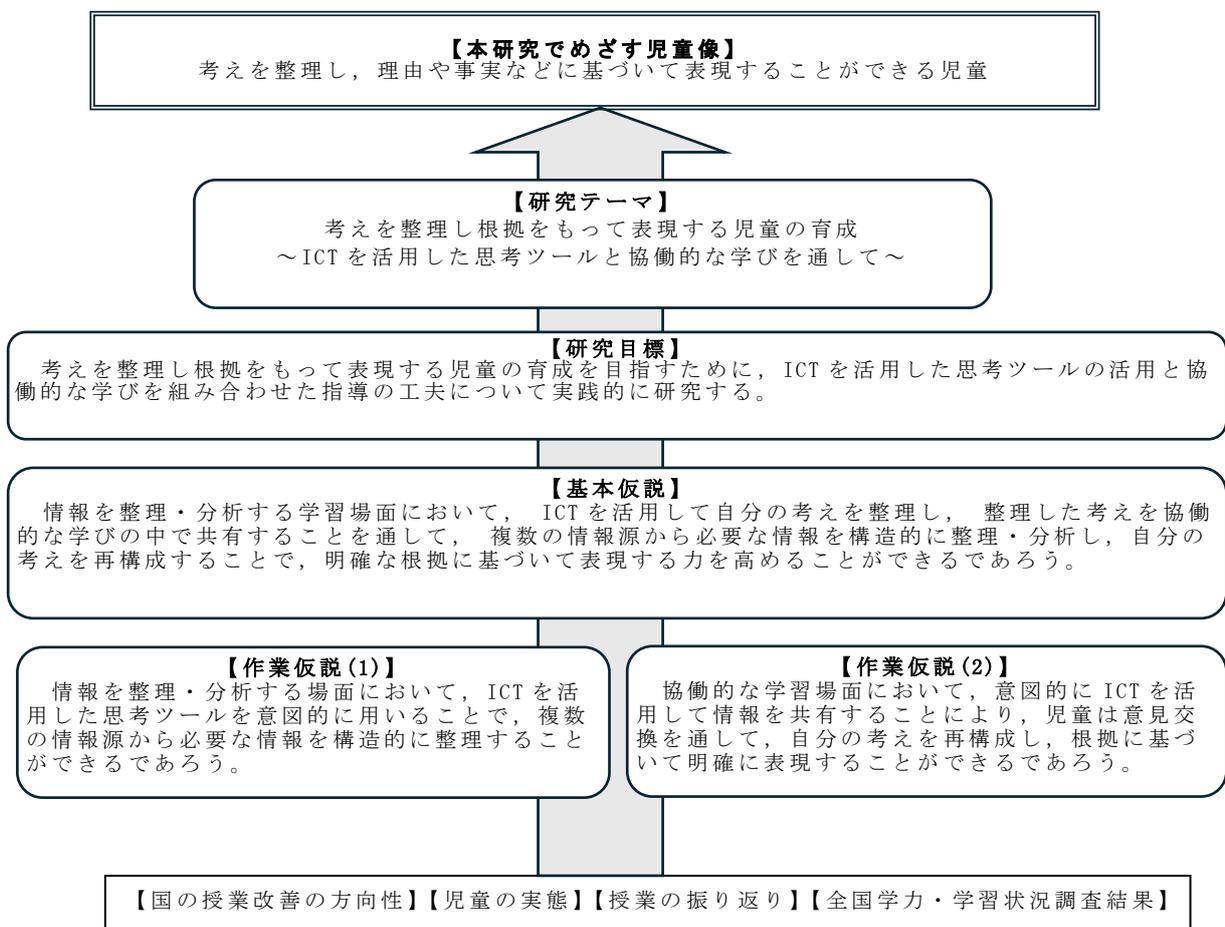
1 基本仮説

情報を整理・分析する学習場面において、ICTを活用して自分の考えを整理し、整理した考えを協働的な学びの中で共有することを通して、複数の情報源から必要な情報を構造的に整理し、自分の考えを再構成することで、明確な根拠に基づいて表現する力を高めることができるであろう。

2 作業仮説

- (1) 情報を整理・分析する場面において、ICTを活用した思考ツールを意図的に用いることで、複数の情報源から必要な情報を構造的に整理することができるであろう。
- (2) 協働的な学習場面において、意図的にICTを活用して情報を共有することにより、児童は意見交換を通して、自分の考えを再構成し、根拠に基づいて明確に表現することができるであろう。

IV 研究構想図



V 研究内容

1 考えを整理し根拠をもって表現する児童とは

小学校学習指導要領解説国語編の「話すこと・聞くこと」領域では、課題の設定、情報の収集、内容や構成の検討、表現・共有といった学習過程を通して、考えを整理し根拠をもって表現する力を育成することが重視されている。これらの過程は、話し手と聞き手の関わりの中で児童が自らの考えを深め、整理する基盤となる。特に第3・4学年では、「目的や意図に応じて事実や意見を聞き取り、要点を捉えて話すこと」が重要とされる。

本研究では、小学校国語科の「話すこと・聞くこと」における学習過程を基盤として、児童が多様な情報や他者との考えに触れながら、情報を整理・再構成し、自分の視点を確立していく思考過程の育成を目指す。具体的には、聞き取り活動で児童がメモをもとに ICT を活用して共有・可視化し、他者のメモと比較しながら自分の考えを再構成・表現する力の育成を目指す。

このような学習過程の中で、「なぜそう言えるのか」という問いに対して、理由や事実に基づいて表現できる児童の姿を、本研究における「考えを整理し根拠をもって表現する児童」と定義する。

そこで、情報の整理や思考の可視化を支える手立てとして、ICT や思考ツールを活用し、情報を共有・可視化しながら、協働的な学びの中で他者の視点を取り入れつつ、自らの考えを再構成することを重視する。

2 情報活用能力に基づく表現力を育む学習過程

「情報活用能力ベーシック」（情報活用能力育成調査研究委員会 2025）において、学習の5つの過程（①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現、⑤振り返り・改善）と、それに関連する13のキーワード（発見、収集、整理、比較、処理、統計、形成、発信、伝達、表現、創造、振り返り、改善）を軸に授業設計を進めることが重要であると述べられている（表1）。

本研究では、特に「整理・分析」の過程に着目する。児童は情報を単に並べるのではなく、情報同士の関係性や意味を自分の視点で捉え直すことが、思考の深化につながると考える。さらに、この整理・分析の段階を ICT や思考ツールを活用して可視化・構造化することで、児童が自分の考えを整理しやすくし、他者の意見との比較や関連付けを通して自らの意見を再構成する力を育む学習過程として位置付ける。

表1 情報活用能力に基づく表現力を育む学習過程

「情報活用能力ベーシック」（情報活用能力育成調査研究委員会 2025）を参考に筆者作成

①課題の設定	②情報の収集	③整理・分析	④まとめ・表現	⑤振り返り・改善
発見	収集	整理, 比較, 処理, 統計	形成, 発信, 伝達, 表現, 創造	振り返り, 改善

3 ICT を活用した協働的な学びと再構成

『学びのイノベーション事業』実践研究報告書（文部科学省 2014）では、学校における ICT を活用した学習場面について、「情報端末を用いて、学習課題に対する互いの進捗状況を把握しながら作業することにより、意見交流が活発になり、学習内容への思考を深めることが可能となる。情報端末などを用いて、互いの考えを視覚的に共

有することにより，グループ内の議論を深め，学習課題に対する意見整理を円滑に進めることが可能となる」と示している（図1）。本研究では特に，協働での意見整理の場面を設定する。

田村・黒上(2013)は，互いの考えを伝え合うことで，自分の考えや集団の考えを発展させる学習活動では，相互の情報交換が必要となってくる。「『INPUT』ならば，事実を正確に理解すること，そのために，賛否や是非を意識して話を聞くことなどの言語活動が行われる。『OUTPUT』では，他者に分かりやすく伝えるために，相手や場を意識したり，事実と意見を分けて示したり，構成や表現方法を工夫したりするなどの言語活動が行われる。『PROCESS』では，情報同士の再構成をするために，頭の中で真剣に思考し，自らの考えを生み出そうと努力する。とりわけ，この『PROCESS』の部分を活活性化し，積極的に働かせることが思考力の育成に結びつく」と示している（図2）。本研究では，児童が情報の整理・分析の過程で ICT を活用し，協働的な学びを通して考えを多角的に再構成し，根拠を明確にして表現する力の育成を目指す。



図1 学校における ICT を活用した学習場面
『『学びのイノベーション事業』実践研究報告書』（文部科学省 2014）

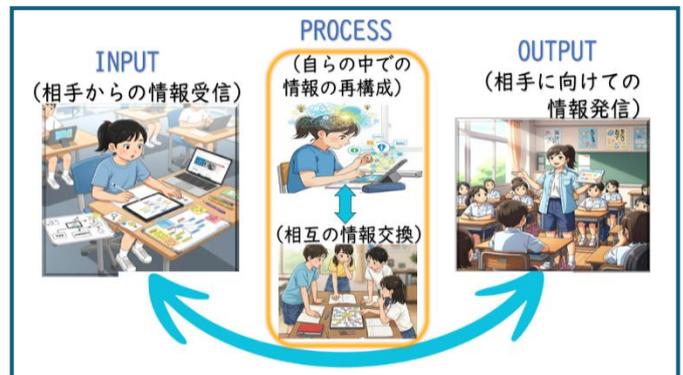


図2 考えを整理・再構成する過程
田村・黒上「考えるってこういうことか！
『思考ツールの授業』」（2013）を参考に筆者作成

4 ICT を活用した思考ツールの手立て

田村・黒上(2013)は，「思考力を育成するためには二つのポイントがある。一つは，思考というビッグワードをブレークダウンすること。もう一つは，その力を育成する具体的な学習活動を用意することにある」と述べている。さらに，「比較する，分類する，関連付ける，多角的に見るなどと，それを細かく分け，具体化することで育成への可能性は格段に高まる」として，思考ツールの有効性を示している。

これまでの実践で，児童は，情報や考えが整理されないままでは「うまく言えない」「何から話せばよいか分からない」と悩む場面があった。本研究では，PMI チャートを「アイデアボタンカード」に組み込み，話し合いや各時間の振り返りで情報の整理・分析を行い，重要な情報や順序を判断しながら考えを構造的にまとめる活動を位置付ける。これにより，多面的に物事を捉え，友達の視点を取り入れながら自分の考えを言語化・伝達する力を育てることを目指す。

また，ICT を通してクラゲチャートやベン図などを活用することで，児童は整理の視点を明確化し，自分の考えが，どんな理由や事実とつながっているかを意識しながら，他者との共有や再構成に生かすことができると考える。

5 対話的な活動を促進する「アイディアバトンカード」の工夫

本研究では、対話的な活動において、友達のリポートに対する具体的な気づきの共有や、情報の改善・再構成を促す手立てとして「アイディアバトンカード」を用いた。このカードは、思考ツールである PMI チャートを活用し、「よかったところ (P)」「もっとよくなること (M)」「まねしたい・工夫 (I)」の3つの観点から情報を整理し、具体的に振り返ることができるツールである。

児童は、このカードを活用することで他者の視点を取り入れ、自分のメモを客観的に見直し、情報の整理や再構成に生かすことができると考える(図3)。また、毎時間の振り返りシートでは、「M(できなかったこと・頑張りたいこと)」を次の時間の目標に設定することで、「MがPに変わる学び」を意識しながら自分の学びを進められるようにできると考える(図4)。このような手立てにより、児童同士の対話を促進し、思考の可視化と深化を図ることができると考える。

アイディアバトンカード		
○【当てはまるものに☑をつけよう】		
P (よかったところ) <input type="checkbox"/> 白のカード 伝えたい事(主張)がはっきりしていたよ。 <input type="checkbox"/> 緑のカード 理由(情報)は正確だったよ。 <input type="checkbox"/> ピンク・黄色のカード 特に印象に残った事と自分の考えが相手に伝わるように書いていたよ。	M (もっとよくなること) <input type="checkbox"/> 緑のカード 情報がもう少しあると伝わりやすいよ。 <input type="checkbox"/> 緑のカード 話す順番をかえるともっと良くなるよ。 <input type="checkbox"/> ピンク・黄色カード 自分の考えも書くと相手に伝わるよ。	I (まねしたい・工夫がいい!) <input type="checkbox"/> ~のようなメモの書き方をまねしたい。 <input type="checkbox"/> ~の言葉づかいや表現の工夫をまねしたい。 <input type="checkbox"/> ~の情報の選び方をまねしたい。

図3 「伝えるメモのアイディアバトンカード」筆者作成

今日の学び 私の成長!	P	M	I
①要点で書けた ②工夫ができた ③できるようになった事		①できなかったこと ②もう少し頑張りたい事 ③みんなと話合いたい事	①次のメモに生かしたい事 ②友だちのメモを見てまねしたい事

図4 「PMIチャートを用いた毎時間の振り返りカード」筆者作成

VI 授業実践(第4学年)

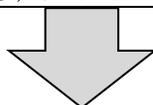
1 国語科における実践

(1) 単元の概要

単元名	大事なことを落とさずに聞こう
内容のまとめ	第4学年 「A 話すこと・聞くこと」
単元の目標	◎ 必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。(知(2)イ) ◎ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話して伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉え、自分の考えをもつことができる。(思A(1)エ) ○ 相手を見て話したり聞いたりすることができる(知(1)イ)
単元で取り上げる言語活動	聞きたいことを聞き、その内容を伝えるためにメモを取る。

2 「本単元の指導と評価の計画(全8時間)」及び「本単元に係る学習の系統」

学習の系統(前)	3年 もっと知りたい、友だちのこと ・話を聞き、知りたいことを考えて、質問する
----------	--



時	■主な学習活動	☆再構成 ◇協働的な学び 【ICTを活用した思考ツール】	【評価項目】（評価方法）
1 課題設定	1 学習課題の設定と計画 ■課題意識を持つ。	◇ICTで考えを出し合い共有。 ☆メモが上手になるためにはどんな力を身につけたらいいか考える。 【XチャートまたはYチャート】	【態】 ・メモを取ることに目的や場面について知り、メモを取ることに付いて課題を捉えている。メモの目的に気付いている。 (PMIチャート)
2 情報の収集	2 要点でメモを取る ■教科書P45中川先生の話聞き、【XチャートまたはYチャート】を使って情報を整理し要点について話合う。	◇見本のメモと比べる。 ◇目的にあった情報の要点を考えさせる。 ☆自分のメモを再構成させる。 【XチャートまたはYチャート】	【知】 ・目的に合った必要な語句などの書き留め方(要点)を理解している。 ・整理の視点をもってメモを取っている。 (メモ・PMIチャート)
3 整理・分析	3 メモの取り方の工夫 ■教科書の見本を見てメモの取り方でどう工夫しているか確かめ、P46下段参照しポイントを抑える。聞いた内容を相手に伝えるために考えを整理し伝えるメモを作成する。	◇2つの見本のメモを比べて、気が付いたことを付箋紙に出す。 【ベン図】 ◇メモを取るときに工夫を考える。 ☆自分で書いたメモと見本を比べポイントの視点でどうだったか話合い、再構成する。 【クラゲチャート】	【知】 ・目的に合った必要な語句などの書き留め方(書き方の工夫)を理解している (メモ・PMIチャート)
4 整理・分析	4 前時のメモの取り方を学習に生かす ■目的意識をもって聞かせる。 ■メモを取らせ、グループのメモと比較させる。聞いた内容を整理し伝えるメモを作成する。	◇ICTを活用してメモを共有し、グループで書き方の良いところや、要点を確認し、足りない情報を確認する ☆自分のメモと友達のを比較し、情報を整理する。 【PMIチャート】 ☆クラゲチャートで結論と根拠を考え自分の考えを付け足す。 【クラゲチャート】	【思】 ・必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、記号や要点でメモを取っている。 ・友達と意見交換をしながら自分の考えを再構成している。 (メモ・クラゲチャート)
5 整理・分析	5 先生の話聞き、「聞き取りメモ」の再構成 ■聞き取りメモを整理させ、伝えるメモを考える。	◇ICTでメモを共有し、グループで伝わりやすいメモになっているか確認し伝え合う ☆自分が印象に残ったこととクラスに伝えたい情報を選び、「伝えるメモ」に書く。 【クラゲチャート】	【態】※記録に残す評価 ・粘り強く必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話の中心を捉え、聞いたことを伝えるためのメモを取ろうとしている。 (メモ・観察・録画・PMIチャート)
6 本時整理・分析	6 「伝えるメモ」の再構成 ■自分のメモと友達のを比較させ、伝えるメモを再構成する。	◇ICTでメモを共有し、グループで伝わりやすいメモになっているか確認し伝え合う。 ☆話合ったことを基に、再構成する。【クラゲチャート・PMIチャート】	【思】※記録に残す評価 ・相手に分かりやすく伝えるために、話の中心を明確にし、理由や事例を用いて構成している。 (クラゲチャート・観察)
7 ・表現 まとめ	7 情報を伝える ■前時で構成した聞き取りメモを基に、伝えるメモで話の内容をクラスの友達に伝える。	☆発表を聞いて、この単元で学んだこと、次につなげたいことを考える。 【PMIチャート】	【思】※記録に残す評価 ・整理した情報をメモに基づき、相手に分かりやすく発表している。 (観察・録画)
8 ・改善 振り返り	8 学習の振り返り ■「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	☆ICTでこれまでの振り返り、身に付けた力を確認しながらまとめ、今後につなげる。 【PMIチャート】	【態】 ・学習で学んだことを次に生かそうとしている。 (PMIチャート・発言)



学習の系統(後)	4年 あなたなら、どう言う
----------	---------------

3 本時の指導

(1) 目標

相手に分かりやすく伝えるための「伝えるメモ」の工夫について考え、情報の整理や再構成をすることができる。

(2) 授業仮説

- ①協働的な学習場面において、意図的に ICT を活用した思考ツールを用いることで、他者の考えと比較・共有しながら、情報の関連や違いに気付くであろう。
- ②自分の考えを再構成する場面において、複数の情報や他者の視点を構造的に整理・分析することで、「伝えるメモ」に追記・修正することができるであろう。

(3) 本時の展開

段階	学習活動	・指導上の留意点 ◆予想される児童の反応 【ICTを活用した思考ツール】☆再構成 ◇協働的な学び ※本単元ではロイロノートを活用。	評価規準 【評価項目】 (評価方法)
導入 5分	1 前時の伝えるメモで伝えにくかった点について話合う。 2 めあてを確認する。	・児童が「伝わりにくい」と感じた理由を共有できるように促す。	
めあて 相手に分かりやすく伝えるためには 伝えるメモをどう工夫したらいいか考えよう。			
展開① 20分	3 グループで互いのメモの取り方を比べる。 アイデアボタンタイム	◇「伝えるメモ」を比べ、司会を中心にグループで共有し意見交換をする。 ・児童の「伝えるメモ」の【クラゲチャート】をロイロノートの提出箱に提出させ、自分の作成した「伝えるメモ」を伝えさせる。 ・友達のメモを参考にし、気づいた点をワークシートに記録させる。 ・リーダーの進行で、「アイデアボタンカード」を基に、考えたことを伝え合わせる。 ◆もっと伝わりやすくするためにはどうしたらいいかな。 ◆この書き方がいいな。まねしたいな。	【思】 相手に分かりやすく伝えられるかを基に、伝えるメモを再構成している。 (クラゲチャート・観察)
展開② 10分	4 「伝えるメモ」を再構成する。	☆話合いで確認したことを書き足したり、訂正したりし、情報を整理する。 【クラゲチャート】で情報を整理する。 ◆話す順番を替えてみよう。 ◆情報を追加しよう。 ◆自分の考えをもう少し詳しく伝えよう。 【「努力を要する」状況と判断される児童への支援】 再構成できない児童には、意見交換が終わった後に、グループで内容を確認したことを聞いたり、他の人のメモを参考にさせながら情報を付け足したり、整理させたりするように促していく。	
終末 10分	5 まとめ 6 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	まとめ ・前のメモと比べてどんなところが良くなったか。・どんな工夫をしたか。 ・どんなアイデアを取り入れたか。 【PMI チャート】に入力させる。 「できるようになったこと」「やり残したこと」「次の時間に話合いたいこと」「再構成をして気がついたこと」など。 ◆最初のメモより伝わりやすいメモになった。 ◆～さんのメモやアイデアで「伝えるメモ」が良くなった。 ◆再構成をすると「伝えるメモ」がさらに良くなった。	

VII 結果と考察

1 作業仮説(1)の検証

情報を整理・分析する場面において、ICTを活用した思考ツールを意図的に用いることで、複数の情報源から必要な情報を構造的に整理することができるであろう。

【結果】

本時では、「伝えるメモ」(クラゲチャート)の改善に向け、導入で前時のメモを振り返り、「どの点が伝えにくかったか」を話し合う場面を設定した。児童は「情報の順番が分かりにくい」「情報が足りなかった」などの課題を挙げ、自らのメモを見直す姿が見られた。

展開では、クラゲチャートで事実・感想・意見を可視化し、アイディアバトンタイムでアイディアカードをもとに友達と意見を交換した。助言を受け、自分のメモを修正するなど、対話によって再構成が促されていた(図5)。

アンケート結果からは、「自分の考えと友だちの考えを比べて共通点や違いに気づける」と答えた児童が23%増加し(図6)、「図やメモで整理すると考えがはっきりする」と答えた児童も22%増加した(図7)。さらに、児童の振り返りには、「思考ツールを使うと、順番を整理できて伝えやすくなった」といった記述が見られた。また、図8の「聞き取りメモ」には、児童がYチャートを用いて理由やつながりを整理し、思ったことも記録している様子が示された。「聞き取りメモ」においても、思考ツールを用いることで、情報を構造的に整理し、メモを書く力が向上していることが確認できた。

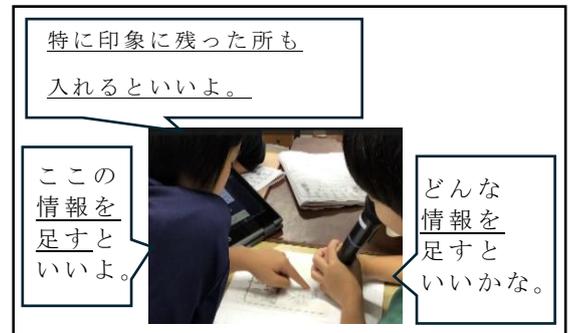


図5 対話を通じた意見交換

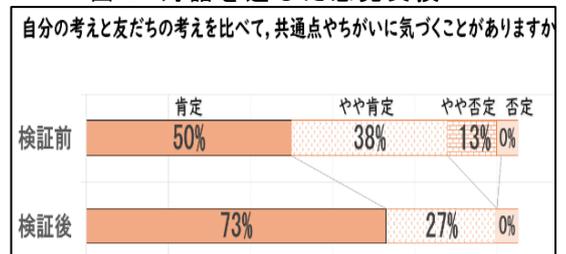


図6 ICTを活用した比較による気づきの変化

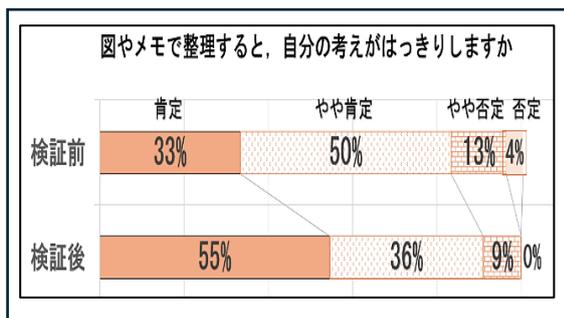


図7 整理することの良さへの気づき

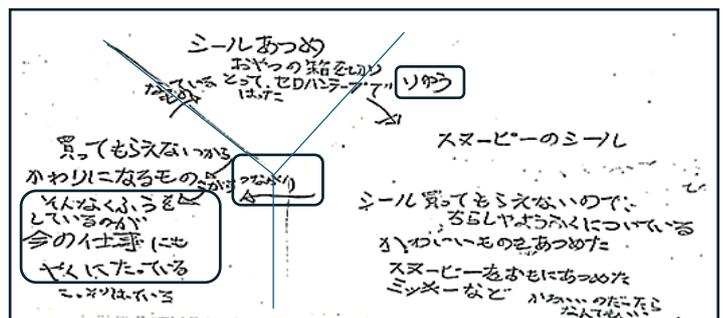


図8 思考ツールを用いて整理した「聞き取りメモ」

【考察】

児童はICTを活用して前時の「聞き取りメモ」を共有し、他者のメモと比較することで、情報の整理を行っていた。「伝えるメモ」(クラゲチャート)を用いることで、事実・感想・意見の区別を視覚的に捉え、「何をどの順番で伝えるか」という整理意識が高まったと考えられる。また、Yチャートを用いたメモからは、児童が理由やつながりを意識し、さらに自分の思いを付け足して記録する姿が見られ、情報を構造的に整理する姿が見られた。さらに、アイディアバトンタイムの導入により、友達の意見

を基に自分の考えを見直し、再構成する学びが促進された。加えて、PMI チャートの活用では、友達とのメモと比較しながら自分の考えを多面的に整理・修正する姿も見られた。振り返りにおいては、「情報の付け足し」や「順序の工夫」といった改善点を具体的に言語化する記述が多く見られた。これらのことから、児童は ICT を活用した思考ツールを用いることで、複数の情報源を基に自分の考えを構造的に整理・分析する力を高めたと考える。

2 作業仮説(2)の検証

協働的な学習場面において、意図的に ICT を活用して情報を共有することにより、児童は意見交換を通して、自分の考えを再構成し、根拠に基づいて明確に表現することができるであろう。

【結果】

本時では、児童は ICT を活用して「伝えるメモ」(クラゲチャート) を共有し、それを基にアイデアバトンカードの視点で話し合った。その中で、自分と友達とのメモを比較しながら、「この順番が伝わりやすい」「こっちの情報を変えた方が分かりやすい」などの順序や内容の修正点について意見を交

2 番目と4 番目は同じ情報だよ。

確かに！どちらか選んだら良いね。4 番目がいいかな。2 番目の情報を変えたいね。

どこの情報の順番を変えたいかな

P (よかったところ)	M (もっとよくなる)	I (まねしたい・工夫がいい)
白のカード 伝えたい事(主張)がはっきりしていたよ。	緑のカード 情報がもう少しあると伝わりやすいよ。	～のようなメモの書き方をまねしたい。
緑のカード 理由(情報)は正確だったよ。	緑のカード 話す順番をかえるともっと良くなるよ。	～の言葉づかいや表現の工夫をまねしたい。
ピンク・黄色のカード 特に印象に残った事と自分の考えが相手に伝わるように書いていたよ。	ピンク・黄色のカード 自分の考えも書く相手に伝わるよ。	～の情報の選び方をまねしたい。

図 9 ICT で「伝えるメモ」を共有し意見交換をする様子

わし、表現内容を見直す姿が見られた。(図 9)。再構成後の「伝えるメモ」(クラゲチャート)には、①で新しい記述を追加し、②では考えの関連付けが行われ、③では比喩的な表現を取り入れていた。④では「特に印象に残ったこと」に理由を付け加え、⑤では感想を加えていた(図 10)。アンケートでは、「友だちと話し合う中で、『なるほど』と思って自分の考えを見直したことがありますか」という設問で、「あてはまる」と答えた児童が 28%増加した(図 11)。第 7 時のニュースキャスター形式の発表では、児童は「特に印象に残ったこと」と「感想」を組み合わせる発表し、理由や根拠をもとに自分の考えをはっきりと伝える姿が見られた。アンケート結果では、「他の人に考えを伝える際に根拠をもとに理由をはっきり伝えていきますか」という質問に対し、「あてはまる」と答えた児童が 78%増加した(図 12)。

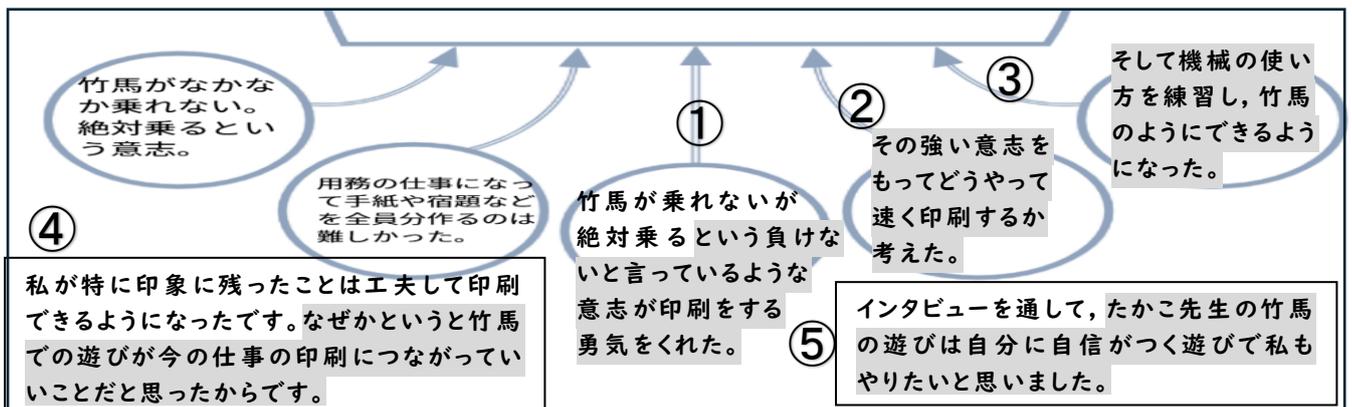


図 10 再構成後の「伝えるメモ」(網掛け部分は情報の追加)

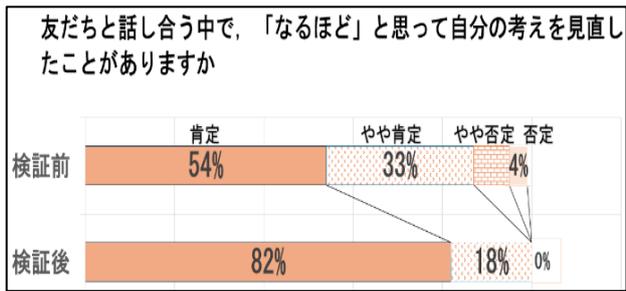


図 11 比較を通して考えを見直す気づきの変化

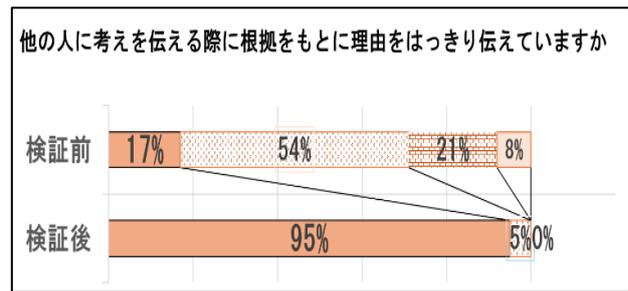


図 12 ICT 活用による根拠をもった表現力の変化

【考察】

協働的な学習場面で、児童は友達の見解を参考にしながら自分の考えを再構成する活動に取り組んだ。この過程で、自己の表現を客観的に捉え、情報の整理や表現方法を工夫する必要性に気づき、主体的に改善する姿も見られた。

意図的に ICT を活用して情報を共有することで、児童は他者の考えをすぐに見比べながら自分の考えを整理し、具体例や感想を加えて説得力のある表現に高めることができた。このことは、ICT 端末やクラゲチャートなどの思考ツールと意図的な話合いの手立てによって、児童の考えの再構成が促されたと考える。

意見交換は、自己の考えと他者の違いに気づくきっかけとなり、根拠に基づいた表現を意識的に行う動機にもなった。児童は自分の考えを再構成し、印象に残った内容や感想と結びつけて伝える力を高め、表現力の向上にもつながったと捉えられる。

以上のことから、協働的な ICT 活用と意図的な話合いは、児童が自己の考えを再構成し、根拠をもって明確に表現する力を育成するうえで有効であると考えられる。

Ⅷ 成果と課題

1 成果

- (1) 情報を整理・分析する場面において、ICT を活用した思考ツールを意図的に用いることで、児童は考えを整理し、表現内容や伝える順序を見直すなど、複数の情報から必要な情報を構造的に整理することができた。
- (2) 協働的な学習場面において、意図的に ICT を活用して情報を共有することで、児童は友達の見解を参考にしながら情報を整理し、事実と意見と感想を区別して書くなど、自分の考えを再構成し、根拠に基づいて明確に表現することができた。

2 課題

- (1) 目的意識が不明確な児童に対しては、ICT を活用した思考ツールに「自分の考えを支えるために必要な情報は何か」「なぜこの順序にしたのか」といった問いを提示し、整理の意図や順序を振り返らせる指導の工夫が必要である。
- (2) 根拠を考えずに再構成する児童に対しては、「なぜこうしたのか」を意識できるように、ICT 上で根拠を確認できる手立てと支援の工夫が必要である。

《主な参考文献》

『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 総則編』	文部科学省	東洋館出版社	2017
『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019
『考えるってこういうことか！思考ツールの授業』	田村学・黒上晴夫	小学館	2013